

平成17年度土木研究所研究評価所内委員会による研究評価結果について - 16年度終了課題の事後評価 -

独立行政法人土木研究所研究評価要領に基づいて、平成17年5月11日に実施した平成16年度終了課題（基盤研究）に対する土木研究所研究評価所内委員会（内部評価委員会）の結果を以下のとおり公表します。

内部評価委員会の構成：

委員長：理事

委員：研究調整官、特別調整官、地質官、総務部長、企画部長、技術推進本部長、
材料地盤研究グループ長、耐震研究グループ長、水循環研究グループ長、
水工研究グループ長、基礎道路研究グループ長、構造物研究グループ長、
ユネスコセンター設立推進本部長、研究企画官

事務局：研究企画課

評価方法：

事後評価は、成果報告書と研究責任者（主席研究員または上席研究員）の自己評価シートをもとに、「研究成果（目標の達成度）」、「成果の発表」、「成果の普及への取り組み」の3項目について、次の選択肢の中から評価した。

「研究成果」：

- ・本研究で目指した目標を達成でき、技術的に大きな貢献を果たしたと評価される
- ・本研究で目指した目標を達成できない部分もあったが、技術的貢献は評価される
- ・技術的貢献は必ずしも十分でなかったが、研究への取り組みは評価される
- ・研究への取り組みは不十分であり、今後、改善を要す

「成果の発表」：

- ・適切
- ・やや不十分
- ・不十分

「成果普及への取り組み」：

- ・適切
- ・やや不十分
- ・不十分
- ・その他（たとえば、まだ普及段階に至っていないなど）

評価対象課題：

評価対象課題は次に示す22課題である。

技術推進本部：

- 1 表層地盤の動的特性の原位置調査技術に関する研究
- 2 I T技術を活用した情報化施工技術の開発
- 3 交差点立体化等の路上工事短縮技術の開発（先端技術）
- 4 交差点立体化等の路上工事短縮技術の開発（施工技術）
- 5 道路土工8指針の高度化・体系化に関する調査（施工技術）
- 6 建設発生木材のリサイクル技術に関する研究
- 7 粉じん対策技術の評価・開発
- 8 硬化コンクリートの品質検査方法に関する研究

材料地盤研究グループ：

- 1 道路土工8指針の高度化・体系化に関する調査（土質）
- 2 高分子系土木用構造材料の促進劣化試験方法に関する研究
- 3 下水道管渠周辺地盤のゆるみ評価・対策技術の開発

水工研究グループ：

- 1 不確定性を考慮した地下水モデル構築に関する研究

土砂管理研究グループ：

- 1 振動式土石流センサーのトリガー設定手法に関する研究
- 2 大変位地すべりの発生場の条件に関する研究
- 3 降水指標による地すべり警戒基準に関する調査

基礎道路技術研究グループ：

- 1 交差点立体化等の路上工事短縮技術の開発（舗装）
- 2 トンネル覆工コンクリートの耐火性能に関する研究
- 3 トンネル内排気ガス実態調査

構造物研究グループ：

- 1 交差点立体化等の路上工事短縮技術の開発（基礎）
- 2 道路土工8指針の高度化・体系化に関する調査（基礎）
- 3 F R Pの道路構造物への適用に関する調査

新潟試験所

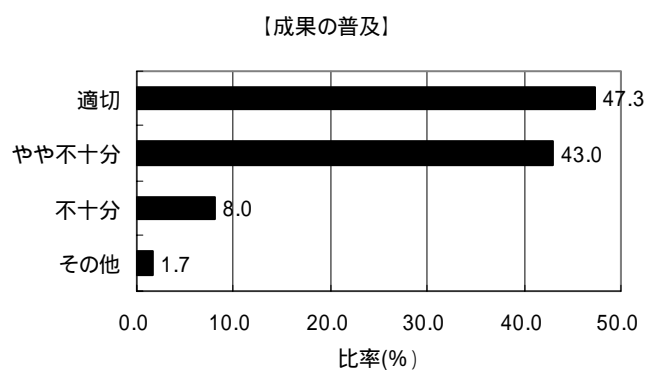
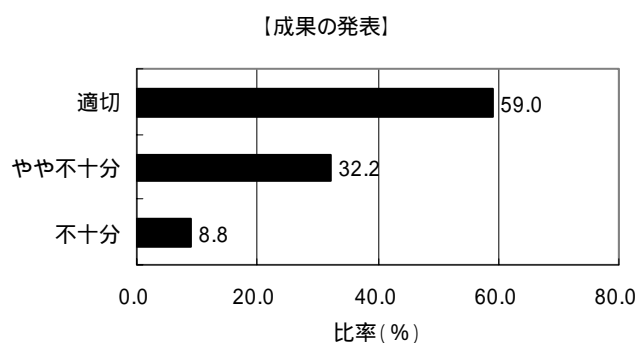
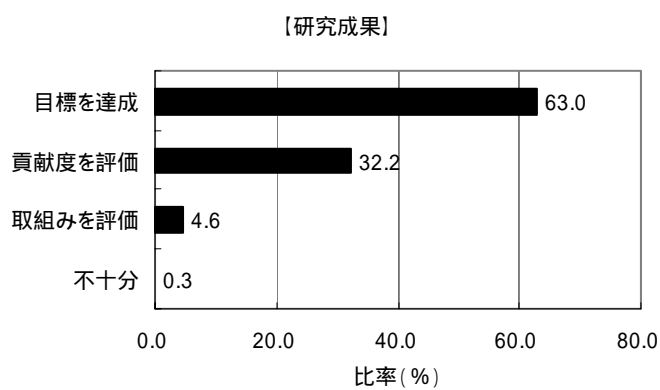
- 1 地下水流動状況の把握技術に関する研究

評価結果

評価対象となった22課題に対する各評価委員の評価結果を総括してその分布を示すと、図一1のとおりである。【研究成果】については、「目標を達成」という評価

が最も多かった。また【成果の発表】については、「適切」が最も多く、【成果普及の取り組み】についても「適切」が最も多かったが「やや不十分」も同程度あった。このため、今後とも成果の普及に力点をおく必要がある。

図一 1 評価結果の分布



なお 評価対象 22 課題のうち、「研究成果」「成果の発表」のいずれにおいても 2/3 以上の評価委員から「目標達成」「適切」という評価を受けた課題は 6 課題であった。その課題名と達成目標は以下に示すとおりである。

1:交差点立体化等の路上工事短縮技術の開発(施工技術)

2:交差点立体化等の路上工事短縮技術の開発(舗装)

【達成目標】

- ・立体交差化工事に伴う交通渋滞等の影響を考慮した施工法の評価手法の提案
- ・渋滞対策に資する建設機械の要求性能の提示
- ・舗装工事期間が短い材料および施工技術の提案
- ・一般交通への影響の少ない下部構造物の設計・施工法の開発

3:道路土工 8 指針の高度化・体系化に関する調査(施工技術)

【達成目標】

- ・各指針において要求性能、要求水準を提示
- ・要求性能・要求水準を確認するための検証方法・品質管理手法の提案

4:建設発生木材のリサイクル技術に関する研究

【達成目標】

- ・国内の木質材料の受け入れ先の利用目的・品質を踏まえた木材チップの用途別品質評価指標の提案
- ・リサイクル材の品質に着目した建設発生木材の再生木質ボード等へのリサイクル方法の提案

5:粉じん対策技術の評価・開発

【達成目標】

- ・粉じん対策の開発目標の設定、技術評価方法の提案
- ・ずい道建設工事現場のニーズに合った粉じん対策技術の開発及び評価（共同研究）
- ・対策技術の適切な組み合わせ方法による調査・評価

6:硬化コンクリートの品質検査方法に関する研究

【達成目標】

- ・コンクリート構造物を直接検査できる試験方法の整理
- ・各種品質検査方法の改善と適用性の提示

なお、この 6 課題のうち、「成果の普及の取り組み」についても 2/3 以上の評価委員から「適切」という評価を受けた課題は 1, 4, 5 である。

一方、今回の評価の対象となった 22 課題の評価結果の中から、今後、研究を進めるにあたって考慮すべき項目として、次のような指摘があった。

- ・ 今後、現場への普及に一層努力する必要がある。
- ・ 成果の公表と普及に努力されたい。
- ・ 課題における土研の役割について常に意識されたい。
- ・ 道路交通への影響の検討結果について、実現場での検証が必要である。
- ・ 研究成果をもとに指針の改訂作業を計画的に進められたい。
- ・ 中越地震での被害も考慮して、必要に応じて指針の改訂に反映させることが望ましい。
- ・ 実務にすぐ役立つアウトカム大きな成果を挙げている。
- ・ 共同研究における土研の役割について常に意識されたい。
- ・ 研究成果をどう活用するか検討する必要がある。
- ・ 今後の一層の詰めと実務への展開を期待したい。
- ・ このような事例に基づく研究は土研として大切であり、今後も系統的に事例を収集・活用されるよう期待する。
- ・ 適用性を見極めも重要な成果である。